

Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●



みすず書房の本棚

【無料送付】

No.10 2014春

(価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷5-32-21 tel.03-3814-0131 http://www.msz.co.jp

今世紀最悪の緊急事態に立ち向かう

国井修

二〇一〇年一月二日、四国の一五倍ほどのカリブ海の島国ハイチで発生した地震は、今世紀最悪の災害となった。死者三万人(政府発表)は阪神淡路大震災の四八倍、東日本大震災の一六倍である。

泥まみれの遺体・負傷者、瓦礫と化した家屋、なぎ倒されたビルの残像は今でも消えない。

ハイチの悪夢は、その死者の多さ、光景の悲惨さだけではない。三〇〇万人といわれる被災者を救援・支援するための物資がない、政府・行政が機能しない。海外から緊急援助が届くも、首都のインフラは壊滅状態で、援助自体がうまく進まなかった。さらに地震発生一〇カ月後、皮肉にも復興支援で駐留していたネパールの国連平和維持活動(PKO)部隊が感染源と思われるコレラが流行し、瞬く間に全国さらに周辺国に拡大し、七〇万人以上が発症、八〇〇人以上が死亡した。

そんな「今世紀最悪の緊急事態」をどだけ日本人が知っているだろうか。この本はその記録であり、犠牲者に代わって証言するものである。

しかし、著者のファーマーにはさらに伝えたいこと、検証したいことがあった。彼曰く、ハイチの地震は「慢性状態が急性増悪した出来事」

「日本の論壇などではなかなかお目に書かれない、スケールの大きな、真のリベラルの雄姿」(『朝日新聞』書評欄)と評され、やはり予想以上の読者を得た。

そして三冊目が本書『復興するハイチ』である。全世帯の五〇%が震災者である。

「医療ドキュメント・海外事情」(四六判・360頁・四三〇〇円)

「急性増悪した出来事」

「慢性状態が急性増悪した出来事」

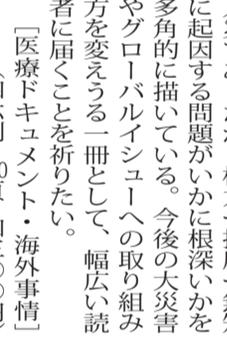
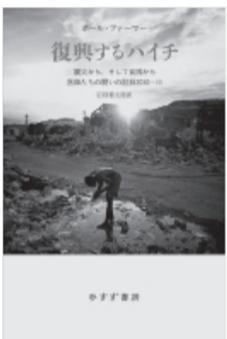
震災から、そして貧困から 医師たちの闘いの記録

2010-11

ポール・ファーマー

《復興するハイチ》

岩田健太郎訳



地震で倒壊した 築100年のハイチ大統領府

と比較検討し、解決を模索しているのか。本書を読んでものお楽しみである。

言っている。私の関心はむしろ、どうやって日本にファーマーのような人材を育てるかである。確かにファーマーは逸材だが、実は世界には彼のように情熱と能力と行動力を兼ね備え、学問と実践を両立させ、資金を動かす、政策に影響を与える人がいる。また組織がある。

日本国内をみると、程度の差こそあれ、彼のような情熱と能力と行動力を兼ね備える人材がいても、それをさらに育て支えられるハーヴァードのような大学、クリントンのような政治家、ジョージ・ソロスのような篤志家がない。

私は以前、日本の病院や大学で働きたり、年に一、二度有給休暇をとってNGOを通じて緊急援助をしていたが、忙しいのに一週間も休みをとるとは非常識などと上司や同僚から叱責された。

それが米国の大学院に留学した時、教授自らがボランティアで貧民街の医療問題に取り組み、内戦が終わったエルサルバドルに休暇を利用して医療ボランティアに行こうと計画した我々大学院生に、一人一〇万円(計六名)の補助金と自主学習として二単位分を提供してくれた。カーターやクリントンは、大統領を辞めてから財団を創設して世界の保健医療、教育問題に真剣に取り組んでいる。

東日本大震災も終わったわけではない。震災後の急性期に二カ月半、その後もときどき被災地を訪れて感じるのは、実は東北にも固有の慢性の問題があり、その分析と検討の上に復興を考えなければ、本当の「よりよい町づくり」(build back better)はできないかも知れないということだ。他人の痛み・苦しみをどれほど真剣に考え続け、行動できるか。ファーマーの本を読みながら、東北のこと、わが国のあり方についても思いを馳せてほしい。(くにい、おさむ 世界エイズ・結核・マラリア対策基金戦略・投資・効果局長)

今号より価格は税別で表示しています。

熱い支持を得た『磁力と重力の発見』『一六世紀文化革命』の著者による待望の書き下ろし。上記二作に続き「なぜ、どのように西近代において科学が生まれたのか」を探る、近代科学誕生史(三部作)の堂々たる完結篇。

テーマは「認識の内容、真理の規準、学問の目的、そのすべてを刷新する過程」となった一五―一六世紀の天文学史である。プロレマイオス理論の復元にはじまり、コペルニクス地動説をへてケプラーの天体力学へいたるその展開は、「観測にもとづく天文学」を(言葉の学問であり、ドグマであった)「宇宙論」より上に位置づけるといふ、学問の序列における一大転換をなしとげ、まったく新しい

近代科学誕生史〈三部作〉完結篇

山本義隆

《世界の見方の転換 全3巻》

- 1 天文学の復興と天文学の提唱
- 2 地動説の提唱と宇宙論の相克
- 3 世界の一元化と天文学の改革



自身を鍛え上げてきた半生記

成田善弘 著 《精神療法家と読書》

「これまで私は、草原の中にぼつんと立っている一本の木のような文章を書きたいと思っていた。その木は下を通る人たちに何かを要請することはない。黙って通り過ぎてでもさしつかえない。それが少しずつ、木の下で憩う人がいてくれるとよいな。そこでひととき語り合ってくれればよいなと思うようになった」

どんな本を読み、どんな本を書き、どのように書き手と触れ合うのか。長年にわたって精神療法の世界で活躍してきた著者が回想する、「私」と「本」、「読む」ということだけでなく、「書評する」「編集する」「翻訳する」「書く」

自然研究のあり方を生みだした。多くの科学史家を虜にしてきたこの変革を、著者は前作から貫かれた視点と周到な目配りで捉えなおす。

「本書は、一五世紀中期から三十年戦争にいたるまでの、北方人文主義運動と宗教改革を背景として中部ヨーロッパを舞台に一世にわたって展開された天文学と地理学、総じて世界認識全般、の復活と転換の物語である。それは前著『一六世紀文化革命』を補完するものとして、一六世紀文化革命と並走しておこなわれた天文学の改革の一部始終を追跡するものである。それはまた、私が『磁力と重力の発見』第3巻で記述したケプラーからニュートンにいたる万有引力発見の物語の前身を明らかにするものでもある。」



近代科学誕生史〈三部作〉

「既刊」『磁力と重力の発見』(全3巻) 『遠隔力』の概念が、近代科学の扉を開いた。遠隔作用の理解の道程を追う。科学史空白の一千余年を解き明かす。1・2 各二八〇〇円 3 三〇〇〇円

「まえがき」より

史料原典・研究文献をほぼ広く読み込んで、自然科学上に浮沈した有名・無名の人物の構想と創意を丹念に跡付け、読者にその思索の軌跡を追う。1・2 各三三〇〇円

人生80年、単線ではもたない

外山滋比古 著 《人生複線の思想

人生一直線、これはすつきりして、はなはだいさぎよいが、これでは危険が多すぎる。人生、山あり谷ありは当然、何が出るか、一寸先は闇である。リストラに交通事故、それに癌とか、考え出すと切れない。

「これまで、ふつうのサラリーマンにとって人生の一応のゴールは定年退職であった。この後は自分で考えるより仕方ない。年をとってからの生複線の思想である。」

「人生、五十年といった時代は、単線ではもたない。それしか走れなかったが、いまや人生八十年である。単線ではもたない。折返して来る複線がある。折返して来る複線がある。折返して来る複線がある。折返して来る複線がある。」

永遠に新しい、稀有な作家の全貌

野呂邦暢 著 《兵士の報酬 随筆コレクション 1 小さな町にて 随筆コレクション 2》

「私は自由といえはばいささか大げさで顔があからむ思いがするが、それを怖れた男だ」(兵士の報酬)。「野呂邦暢小説集成」(全8巻、文遊社)が刊行開始するなど、没後三十三年を経てもますます再評価の声が高まる野呂邦暢。随筆の名手としても知られる彼の初めて活字になった作品「兵士の報酬」(一九六二年)他多数の単行本未収録作品を含む随筆、評論等を二分冊で刊行。

「『兵士の報酬』(池内紀解説)は一九六〇年代―七七年二巻『小さな町にて』(岡崎武志解説、浅尾節子解説)は七八年―没後八〇年までの

多様化する英語の物語

H・ヒッチングス 著 《英語化する世界、世界化する英語》

21世紀、グローバルな言語として不動の王座を手に入れ、評論等を二分冊で刊行。英語は、綴りや文法の変化の波をくぐり、流行り言葉やネットの言葉、英語が母語でない人々の話すエイゴなど、多様性の波をかぶって混ざり

「英語:英語史」(四月上旬刊) (A5 352頁・予価五六〇〇円) 『著者既刊』

「ジョンソン博士の『英語辞典』(田中京子訳(五八〇〇円) 『世界文学を読む何がかわる?』(田中京子訳(三八〇〇円) 『著者既刊』

革新的な音を言語化する

ポール・ヘガティ 著 《ノイズ/ミュージック

音楽を深く味わう者、探究し論ずる者にとってノイズの考察は最も深遠なテーマである。本書では先鋭的な実験音楽や実験的ポップ(ロック、ジャズ領域など)について、そのスタイル・方法・思想・歴史を、芸術論・音楽社会学、現代思想より考察する。

J・ケージ、K・シュトックハウゼン、V・アンダーグランド、ジャーマン・プロダクション、T・グリッセル、O・コールマン、D・ペイリ、J・ゾーンから大友良英、灰野敬二、秋田昌美まで。

「目次」テクノロジー/フリー/エレクトリック/プロダクション/不条理/インダストリアル/パワー/ジャズ/ノイズ/メルツバウ/サウンド・アート/切断/聴取

「著者」一九六七年生まれ。アイルランド国立大学准教授。自身のノイズ・バンドを

論集、あるいはデリダの「ように」

鶴飼哲 著 《ジャッキー・デリダの墓》

本書は師デリダの短い追悼文で、こう始められる。「デリダの友であったと過去形で語ることを彼の思想は許さない。彼の死は終わらざる出来事であるだろう。そのようにして彼は生き続け、考えることを教えるだろう。」

没後十年、鶴飼哲がデリダについて(をめぐって)のようにならぬ。書いた文を集成したこの本はそれを裏切らない。友愛のポリテックス、祈りと無神論、デリダにおけるヘーゲル、裸でない裸、盲者のオリエン、日本における歴史の嘘を貫く怪物のような「かのように」、ならず者国家と

みすず書房新刊

(2013・11・2014・3) 東京文京本郷5 (価額は税別です)

精神分析を語る

殺人ザルはいかにして 経済に目覚めたか? シーブライト 著 部族で対立していた人類は、いかにして繁栄を手にしたのか。人類史を経済学で見とす。山形浩生他訳 三八〇〇円

20世紀ユダヤ思想家

来るべきものの証人たち [全3巻完結] ブレッチ 著 哲学と宗教の間の知的葛藤を追う。レオ・シュトラウス、ハンス・ヨナス、E・レヴィナス。合田正人他訳 八〇〇〇円

デモクラシーの生と死

大正デモクラシー期の 政治と社会 松尾尊賢 全国的な運動、治安維持法の制定、政党内閣の出現と混迷を史料で検証した16論文。図書館・研究者必携。二〇〇〇円

映画音響論

長門洋平 作品を緻密に分析し音響論と溝口研究の新天地を開く。先駆的な視覚文化研究であり、最先端の映画音楽論。六八〇〇円

ヴェニス島の商人の異人論

富岡悦子 大戦と収容所をめぐり抜け、証言者として戦後を生きた二人の詩人。非人間的なものに対抗する詩の倫理。三六〇〇円

哲学は何を問うてきたか

コワコフスキ ソクラテスからヤスバースまで三人の大思想家と問答、神や善悪や自由意志を問うてきた。藤田祐訳 四二〇〇円

ヴェール

シクスー/デリダ ヴェールを剥ぐと真理が現れるという西洋哲学の伝統を書き換えるスリリングな応答。郷原佳訳 四〇〇〇円

ソヴェイト文明の基礎

シニャフスキー かくも鮮やかにソヴェイト国家の実態に迫る本があったらどうか。文学的「精神史的考察」沼野充義他訳 五八〇〇円

万物は流転する

グロスマン 29年間ラーゲリの囚人だった男がスターリンの没後に出現。生き直す。「人生と運命から十年後」齋藤紘一訳 三八〇〇円

シモーヌ・ヴェイユ選集

後期論集・霊性・文明論 [全3巻完結] 人間の悲惨と不幸、労働、神の愛、宗教と文明をめぐり、初邦訳を含む最晩年の14篇に断章と覚書が付す。富原真司訳 五六〇〇円

終りの日々

高橋たか子 昨夏に逝った戦後を代表する女性作家が茅崎のホーミに遺した最晩年の日記を追悼出版。「菊地信義義典」二八〇〇円

フロイトの脱出

コーエン フロイトはいかにしてロンドンへと逃れたのか? 最晩年に秘められたフロイト伝。高橋美樹訳 妙木浩之解説 四八〇〇円

殺人ザルはいかにして

経済に目覚めたか? シーブライト 著 部族で対立していた人類は、いかにして繁栄を手にしたのか。人類史を経済学で見とす。山形浩生他訳 三八〇〇円

大正デモクラシー期の

政治と社会 松尾尊賢 全国的な運動、治安維持法の制定、政党内閣の出現と混迷を史料で検証した16論文。図書館・研究者必携。二〇〇〇円

映画音響論

長門洋平 作品を緻密に分析し音響論と溝口研究の新天地を開く。先駆的な視覚文化研究であり、最先端の映画音楽論。六八〇〇円

ヴェニス島の商人の異人論

富岡悦子 大戦と収容所をめぐり抜け、証言者として戦後を生きた二人の詩人。非人間的なものに対抗する詩の倫理。三六〇〇円

哲学は何を問うてきたか

コワコフスキ ソクラテスからヤスバースまで三人の大思想家と問答、神や善悪や自由意志を問うてきた。藤田祐訳 四二〇〇円

ヴェール

シクスー/デリダ ヴェールを剥ぐと真理が現れるという西洋哲学の伝統を書き換えるスリリングな応答。郷原佳訳 四〇〇〇円

ソヴェイト文明の基礎

シニャフスキー かくも鮮やかにソヴェイト国家の実態に迫る本があったらどうか。文学的「精神史的考察」沼野充義他訳 五八〇〇円

万物は流転する

グロスマン 29年間ラーゲリの囚人だった男がスターリンの没後に出現。生き直す。「人生と運命から十年後」齋藤紘一訳 三八〇〇円

シモーヌ・ヴェイユ選集

後期論集・霊性・文明論 [全3巻完結] 人間の悲惨と不幸、労働、神の愛、宗教と文明をめぐり、初邦訳を含む最晩年の14篇に断章と覚書が付す。富原真司訳 五六〇〇円

終りの日々

高橋たか子 昨夏に逝った戦後を代表する女性作家が茅崎のホーミに遺した最晩年の日記を追悼出版。「菊地信義義典」二八〇〇円

フロイトの脱出

コーエン フロイトはいかにしてロンドンへと逃れたのか? 最晩年に秘められたフロイト伝。高橋美樹訳 妙木浩之解説 四八〇〇円

書評コラム

『みすず』 月刊『みすず』一・二月合併号では毎年「読書アンケ...

『中井久夫』『昭和を送る』 スクリンとしての天皇に...

『知的離脱性』を、著者自身で実践している気配がある...

『夕風の島』 沖縄でもか...

『読書アンケートより』 月刊『みすず』一・二月合併号では毎年「読書アンケ...

『つとむ平和な島が、いま防衛問題の最先端にされた。その怒りが、島の民話や草花の紹介を通して、静かに主張されている。』

『他に上村忠男、保坂和志、他に上村忠男、保坂和志』

『イグレストン』『ホロコ』 『歴史学の将来』

『野生のオ』 『自然と権力』

『ゴードン』『ミシンと日本の近代』

『映像の歴史哲学』

『谷正人』 『ガワンテ』

『武藤洋二』 『天職の運命』



私が小学生のころ、母は父のことを「悪魔の手先」と言いはじめた。本書は、統合失調症患者の母親に育てられた著者が、幼少期からの家族の闘いの日々を綴った回想録である。

娘が綴るノンフィクション

ローラ・フリン 《統合失調症の母と生きて》 佐々木千恵訳 森川すいめい解説

本書の著者の母親は、入院はおろか通院・服薬もせず、ずっと自宅で著者たちを困らせ、脅えさせてきた。日本の厚生労働省の調べによると、わが国では人口の〇・三二〇パーセントが生涯のうち統合失調症にかかるという。この数字の幅が示すように、統合失調症の患者が必ずしも治療対象として把握されていない。わが国でもこの家族と同様のことが容易に起きうるということを示している。

「日本語」は、私の先生

北山修 《意味としての心》 『私』の精神分析用語辞典

「精神分析の言葉は、わけの分からない痛みや葛藤、荒唐無稽な思考や空想、曖昧な情緒や不安、さらに危険視される欲望と衝動に名前をつけて、取り扱うことが目論まれます。誰かが忌避して覗こうとしなかった「腹のうち」や、見えにくい「見にくい、見難い、醜い」「したころ」、そして排除されやすい「狂った心」について、その「こころ(意味)」を語る語彙を、提供し、これを考えるための道具と方法を見出すとします。」



著者既刊より 『最後の授業』(二八〇〇円) 『劇的な精神分析入門』(二八〇〇円)

最愛の人と交わした思想的対話

L・ケラー編 《アーレントとブリュッヒャー》 大島・初見訳 往復書簡 1936-1968

話題の映画『ハンナ・アーレント』でもおわかりのように、アーレントとハインリヒ・ブリュッヒャーは夫婦として深く強く結びついていた。その二人が交わした書簡は、ヤスパースやハイデガーとの往復書簡にまじり、扱われている時代の幅と事柄、その思索と活動、人間性など、アーレントの思想と人となりを生きた時代を知る上で極めて重要な資料であり読み物になっている。パリ亡命時代から「アイ...



「もしも言葉に沈黙の背景がなければ、言葉は深さを失ってしまふであろう。」 『われわれ自身の中のヒトラー』で知られる著述家、ピカール(一八八八-一九六五)の著書、待望の新版。言葉、歴史、芸術など様々な事柄と「沈黙」との関係、人間が自立的で主體的な存在としてあるための「聖なる無用性」としての沈黙の意味を探る。騒音語(独裁者の日々命令など)が万事をならし、均等化してしまふ「世界はいかにして生まれるか」緊密な筆致で綴る。エマニエル・レヴィナスによる論稿「マックス・ピカールと顔」(一九六六年、合田正人訳)を新たに付す。 『哲学・思想』(四六判・280頁・三八〇〇円)

始まりの本

『マックス・ピカール』 佐野利勝訳 『沈黙の世界』

『群馬県・ハンセン病療養所 栗生楽園』に六〇年間暮らす『草津のサルトル』こと笹雄二。「ライは長い旅だから」などの名詩で知られる詩人にして、ハンセン病療養所闘争の理論的支柱であり、療養所を「人権のふるさと」に変えて差別なき社会を創り出すことを志す闘士である。本書は、彼の生涯にわたる詩・評論・エッセイ・社会的発言、編者の聞き書きによる最後の言葉を収める。戦後、特効薬プロミンの出現によりハンセン病は完治するようになったが、後遺症は残り、差別や偏見は続いた。

らいと詩と闘いと夢と

笹雄二詩文集 《死ぬふりだけでやめとけや》 姜 信子編

生存への違和感を昇華させた笹雄二の詩には「療養所文芸」に収まらない普遍的響きがある。同時にそれらは、世界でも例のない八〇年にわたる強制隔離政策に対する理論明晰な当事者証言である。父母が愛してくれた記憶ゆえに頑張られた「鬼の顔」をもつ男の恋。「らい」詩人集団。ひきとり手のない骨髄。患者用重監房・断種手術・病み棄てにされる怒り。日本の究極の差別「ライとアカ」を担った人生が、闘いを忘れた世に叫ぶ。「文学・社会問題」【三月下旬刊】(四六判・384頁・三八〇〇円)

何度でも読み直したい現代の古典

シリーズ《始まりの本》

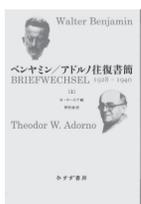
D. リースマン 加藤秀俊訳 孤独な群衆 [全2巻]

読みつがれて50年。個人と社会、時代との関わりを論じた名著が改訂訳版で登場。訳者による新解説をも付す。384頁/336頁・各3200円



神谷美恵子 外口玉子解説 ケアへのまなざし

ひとりの人間どうしとして患者と向き合う。人間としての医療・看護・介護のあり方を見つめるエッセイ、論文、対談——全17篇。272頁・3000円



野村修訳 森田園解説 ベンヤミン/アドルノ 往復書簡 [全2巻] ナチと戦火の迫る亡命の日々、「共同で哲学する運命」を生き、交わされた書簡全121通。各296頁・各3600円

- 臨床医学の誕生 フーコー 神谷美恵子訳 斎藤環解説 3800円
科学革命 スノー 松井巻之助訳 コリー二解説 2800円
天皇の逝く国で[増補版] フィールド 大島かおり訳 3600円
可視化された帝国[増補版] 原史史 3600円
哲学のアクチュアリティ アドルノ 細見和之訳 3000円
進歩の終焉 ステント 渡辺・生松・柳澤訳 木田元解説 2800円
天皇制国家の支配原理 藤田省三 宮村治雄解説 3000円
アウグスティヌスの愛の概念 アーレント 千葉真訳 3000円
ノイズ アタリ 金塚貞文訳 陣野俊史解説 3200円
素足の心理療法 霜山徳爾 妙木浩之解説 3000円
チーズとうじ虫 ギンズブルグ 杉山光信訳 上村忠男解説 3800円
政治的ロマン主義 シュミット 大久保和郎訳 野口雅弘解説 3200円
望郷と海 石原吉郎 岡真理解説 3000円
プロメテウスの火 朝永振一郎 江沢洋編 3000円
科学史の哲学 下村寅太郎 加藤尚武解説 3000円
隠喩としての病い/エイズとその隠喩 ソンタグ 富山太佳夫訳 3200円
カフカとの対話 ヤノーホ 吉田仙太郎訳 3800円
サリヴァン、アメリカの精神科医 中井久夫 3000円
パリ、病院医学の誕生 アッカークネヒト 館野之男訳 引田隆也解説 3800円
ロシア革命の考察 カー南塚信吾訳 3400円
物理学への道程 朝永振一郎 江沢洋編 3400円
ヒステリーの発明[全2巻] ディディエ・ユベルマン 谷川・和田訳 各3600円
沈黙の世界 ピカール 佐野利勝訳 3800円
[続刊] 行動の構造[全2巻] メルロ＝ポンティ 滝浦・木田訳 加藤尚志解説 知性改善論・短論文 スピノザ 佐藤訳

「それで整理して天皇の放送を聞いて。ラジオがガーガーいって何のことか分からないだけども、聞こえたのは……ポツダム宣言を受諾し、ということろだけだった。あつ、これは降伏だと思ったんです。」(生きてきた道)

「生きていけば今年百歳」として『毎日新聞』に紹介され、三月二日に生誕百年を迎える政治思想家・丸山眞男。『丸山眞男話文集』全4巻完結後、更に発掘された講演・座談など約30編を全3巻で送る最後の集成。時代状況への批判的な視点、日本と西洋の思想と格闘する思索



丸山眞男

未発表のまま遺された講演・座談 生誕100年における最後の集成

丸山眞男手帖の会 編
《丸山眞男話文集 続1》

先人や古典への深い読解が、ここに生き生きと語られる。第1巻は、自伝的な内容の「生きてきた道」と一九三〇年代、法学部学生時代の学問的雰囲気、日本学士院論文報告「江戸時代における異端類型化の試み」など、全6編。内容見本呈。「政治学・思想史」(四六判・448頁・五四〇〇円)

▼続刊 第2巻 福沢における文明と独立／『文明論之概略』巻之三第六章「智徳の弁」を読む、など。八月刊。第3巻 民主主義の名におけるフアズム／楽しき会の記録(座談 安東仁兵衛・石川眞澄・岩見隆夫・筑紫哲也・堤清二)、など。十一月刊。

▼丸山眞男の著作を刊行している岩波書店(『丸山眞男集』・東京大学出版会(『日本政治思想史研究』・未來社(『現代政治の思想と行動』)と合同で、書店フェアを予定しております。詳細は追って小社ウェブサイトにてお知らせいたします。

名プロデューサーとシンガーたち

ウェクスラー／リッツへ私はずむ&ブルースを創った
新井崇嗣訳
《ソウルのゴッドファーザー》自伝

「音楽業界にはこれまで、優秀なプロデューサー、口八丁の宣伝マン、老獪なビジネスマンならいた。だがそのすべてを兼ね備えていたのは、エリー・ウェクスラーただ一人。誰も彼より上手くはやらなかった」(ローリング・ストーン誌)

ルース・ブラウン、レイ・チャールズ、ソロモン・バーク、ウィルソン・ピケット、アレサ・フランクリン、ダニー・ハサウェイ、ドクター・ジョン、ウィリー・ネルソン、エタ・ジェームズ、ボブ・ディラン――アトランティック・レコードで、R&B／ソウルをボビリー音楽のメイ

「然るに此の時に当て縦令ひ一院の多数を占め決議を左右する実力ありとも、特に一党之首領を挙げて政局之首班に任せんか、近時政界之趨勢に鑑みて豈能く国内一致共同を望むを得んや」これは、大正五年四月に山県有朋が大隈に送った書翰である。当時大隈は後継者として立憲同志

「七千本以上もの西部劇のなかで育まれたイメージやトリックは、いまなおアメリカ社会のなかで看過しえない影響力を誇っている。西部劇の理解を抜きにして、アメリカを十全に理解することはできない」

はたしてポーター『大列車強盗』は「史上初の西部劇映画」か否か? カウボーイはなぜ入浴シーンで帽子をかぶったまま葉巻をくゆらすのか? モニュメント・バレーはいかにしてアメリカ西部を象徴する景観となったのか? 「未開と文明の接点」としてのフロンティアは、北米大陸から消滅したはずの二十世紀以降も種々のメディアにお

「然るに此の時に当て縦令ひ一院の多数を占め決議を左右する実力ありとも、特に一党之首領を挙げて政局之首班に任せんか、近時政界之趨勢に鑑みて豈能く国内一致共同を望むを得んや」これは、大正五年四月に山県有朋が大隈に送った書翰である。当時大隈は後継者として立憲同志

シネマティック・フロンティア

川本徹《荒野のオデュッセイア》
西部劇映画論



「七千本以上もの西部劇のなかで育まれたイメージやトリックは、いまなおアメリカ社会のなかで看過しえない影響力を誇っている。西部劇の理解を抜きにして、アメリカを十全に理解することはできない」

はたしてポーター『大列車強盗』は「史上初の西部劇映画」か否か? カウボーイはなぜ入浴シーンで帽子をかぶったまま葉巻をくゆらすのか? モニュメント・バレーはいかにしてアメリカ西部を象徴する景観となったのか? 「未開と文明の接点」としてのフロンティアは、北米大陸から消滅したはずの二十世紀以降も種々のメディアにお

矢野龍溪書翰ほか、全170名726通

早稲田大学大学史《大隈重信関係文書》
資料センター編
まっよ

「然るに此の時に当て縦令ひ一院の多数を占め決議を左右する実力ありとも、特に一党之首領を挙げて政局之首班に任せんか、近時政界之趨勢に鑑みて豈能く国内一致共同を望むを得んや」これは、大正五年四月に山県有朋が大隈に送った書翰である。当時大隈は後継者として立憲同志

受賞図書のご案内

■長田弘『奇跡』ミラクル
第55回毎日芸術賞受賞。選評(篠弘)に「時代に対する批評眼を潜在させながら、自己の内面を抉り、平明でやわらかな詩性が一貫する。詩の本質を問う詩集」(一八〇〇円)



■羽木伸明『アイルランドモノ語り』第65回読売文学賞(随筆・紀行賞部門)受賞。選評(辻原登)に「アイルランド・ケルトが触れられるもの、見られるもの、聴こえるもの、



■葛西薫 ツムトア『建築を考える』特装版「ブックデザイン」ADC賞「原弘賞」、東京TDC賞2013「特別賞」(ブックデザイン部門)に続き、JAGDA賞2014(ブックデザイン)受賞。(二五〇〇円)



みすず書房 営業部だより

本紙三面でもご案内の『みすず』1・2月合併号は、読書アンケート特集号です。多彩な顔ぶれの回答者の皆様に新刊既刊を問わず、お薦めの本をご紹介いただいで毎年好評。紹介された書籍を集めたブックフェアも多くの書店で開催されています。バックナンバーのお問い合わせは営業部(TEL113-0033 文京区本郷5-32-2)までどうぞ。

山本義隆『世界の見方の転換』全3巻が刊行を迎えます。二〇〇三年に大佛次郎賞・毎日出版文化賞・パピルス賞を受賞した『磁力と重力の発見』、二〇〇七年刊行の『一六世紀文化革命』に続き、近代科学の誕生を描く三部作がついに完結。全国の主要書店店頭に並びますが、多くの予約注文をいただいでおり、店頭売切のおそれもございます。全3巻の大冊です。消費税増税の前に、ぜひお求めいただければと思います。

みすず書房 近刊のお知らせ

4-6月の刊行予定から

行動の構造《始まりの本》[全2巻]
M.メルロ＝ポンティ 滝浦静雄・木田元訳
加國尚志解説
この道、一方通行《始まりの本》
ヴァルター・ベンヤミン 細見和之訳
音色の革命
近藤等則/佐藤卓
サルなりに思い出す事など
ロバート・M.サボルスキー 大沢章子訳
寝るを建てる建築 鈴木了二
写真講義 ルイジ・ギッリ 萱野有美訳
アメリカ(帝国)のイデオロギー
ハリー・ハルトゥーニアン 平野克弥訳
ベスト&コレラ
パトリック・ドゥヴィル 辻由美訳
良妻賢母主義から外れた人々 関口すみ子
テクニウム ケヴィン・ケリー 服部桂訳
(http://www.mszo.co.jp にもご案内)

みすず書房・最近の重版より

アイルランドモノ語り 羽木伸明	¥3600
終りの日々 高橋たか子	¥2800
ソミア―脱国家の世界史 J.C.スコット 佐藤仁監訳	¥6400
殺人ザルはいかにして経済に目覚めたか? P.シーブライト 山形浩生ほか訳	¥3800
合理的選択 I.ギルボア 松井彰彦訳	¥3200
明るい部屋―写真についての覚書 R.バルト 花輪光訳	¥2800
「昭和」を送る 中井久夫	¥3000
自明性の喪失 W.ブランケンブルク 木村敏ほか訳	¥5600
漁業と震災 濱田武士	¥3000
ノモンハン1939 S.D.ゴールドマン 山岡由美訳 麻田雅文解説	¥3800